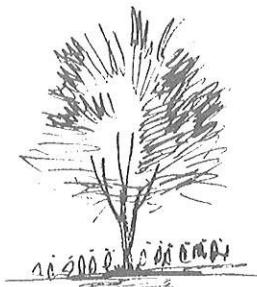


光の子



No.124 2007.3.1

●今年の聖句 人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、何の得があろうか。 (マタイによる福音書16:26)



「梅の花の下で」

挿絵・中島英子

「花冷の指」

猫の恋カクテルに塩ひとつまみ

種蒔いて板東太郎かすみけり

どこに座しても春の野のくすぐつたき

指輪はづして花冷の指残る

バレンタインデーダ星の薄ピンク

革摘む祈るがごとく跪き

春の泥跳んでお使ひ忘れけり

俳人 熊 まどか

親戚のM氏も或る程度年期の入つたコレクターである。焼き物、絵画、彫刻など、有名な作家のものなどを、時々見せてもらう事がある。見せてもらうだけなら良いのだが、たまには鑑定を頼まれる事もあり困るのである。

いつだつたか、或る店にイタリアの著名な彫刻家のエッヂングの四、五枚セットがあるので、一緒に行つて見

もつとも、書画骨董の類のコレクション趣味は昔からあつた筈で、ふるい家には何かしらの謂れをもつた品物が存在するものである。しかし、それらの品物に客観的な価値があるか否かは別である。所有者だけが喜んでいる場合もあつて、まあ、それはそれで意味のないものでもなかろうが。

お宝盗難？

骨董ブームだと言う人がいる。本当
かどうかわからないが、テレビの「な

お宝盗難？

てくれないかと頼まれ、それを見に行つた。

中島
陸雄

う。」と言つてみた。しかしM氏は、もうすっかりこの絵が気に入つてしまつて手離そとはしない。今でも持つ

全然違う。良い物だつたんだ、やつぱり。惜しかつた。

ひかりのこ

原点に戻ろう

菅原 哲男

社会福祉法人光の子ども
の家は創立三十三年度
を迎える準備に追われて
いる。これまでの多くの
方々のご支援、お祈りを
心から感謝する。
設立を志し、「子ども
のための子どもの施設」

社会福祉法人光の子ども家の創立二十三年度を迎える準備に追われて、これまでの多くの方々のご支援、お祈りを心から感謝する。

設立を志し、「子ども」のための子どもの施設

いつも危険がついて回るのである。数年前、ここで幼い時から育つた卒園生が、ケータイの出会い系サイトで出会った男と性的な関係を持ち、それを数人の男性と繰り返し、結果、行方不明になってしまった。数人の男性の中で唯一まづすぐな青年がいて、彼女とともに関わってくれていた。彼を通して彼女の様

したという。そのことから、家族に代わって育てるという方法は彼女によつて徹底的に否定されたと関わった職員たちは認識したとしても尋常であろう。

家族に代わることを目指した家庭的養育の限界に突き当たつた。

今、家庭や家族について多くの人々が考え、論じてきている。そして、そこには

きである。もちろん温故知新を否定するものではないが。
さて、だからどうするのだろう。倫理や道徳などではなく、困り果てて、傷つき病に陥っている者に出会ったときあなたはどうするのか、という原初的な問こそを自らに突きつけるべきではないだろうか、としきりに思う昨今である。

この間のこの国の子どもたちの状況は著しく変容してきている。その変容を追いかけるように児童福祉法の改正が繰り返され、児童虐待防止法など新たな法も新設され既に数年を経ている。それに伴い、児童養護施設光の子どもの家の状況も激変を繰り返している。

この国での激変の主要な要因にITの急展開がある。それはゲーム機、TV、そしてケータイ。最早電話だったとはとても思えない。特にケータイは便利な道具ではあるしかし、便利なものには

として、志を同じくする者たちが集められてから四半世紀が過ぎた。

いつも危険がついて回るのである。数年前、ここで幼い時から育った卒園生が、ケータイの出会い系サイトで出会った男と性的な関係を持ち、それを数人の男性と繰り返し、結果、行方不明になってしまった。数人の男性の中で唯一まつすぐな青年がいて、彼女とまともに関わってくれていた。彼を通して彼女の様子を知り、私たちの思いなどを伝えるかすかな危うい関わりの糸になってくれた。 彼女はその間、自分が施設育ちであることをことごとく利用して人の心を引き寄せて過ごしてきていたのである。施設で監禁された、暴行されたなど訴えることさえあつた。来訪されてある程度状況を識っていた学校の教師さえそれを信じかねない程であつた。

私たちはこれから彼女とどう関わるのか、あるいは関わるのはあるのかなど何度も議論してきた。

文字通り物心両面において相当な関わりをしてきた職員たちは、ここでの養育方法に問題があつたのではないか、という深刻な疑問を表出するに至つてもいる。光の子どもの家では、何らかの問題が発生した家庭に代わる場面と家族のような関係を保障するために文字通り心血を注いできた。

したという。そのことから、家族に代わって育てるという方法は彼女によつて徹底的に否定されたと関わつた職員たちは認識したとしても尋常であろう。

家族に代わることを目指した家庭的養育の限界に突き当たつた。

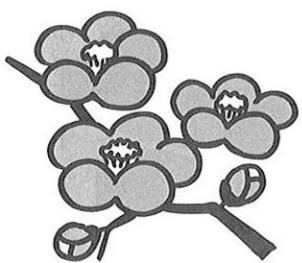
今、家庭や家族について多くの人々が考え、論じてきている。そして、そこには虐待という、それ以外の児童養護施設利用者が珍しくなつた状況もまた、家庭で起きた家族の問題が原因なのである。

児童養護施設は最早虐待問題を避けとは通れなくなつてゐる。そして、多くの識者たちがそれへの対応を論じ百家争鳴策でそれに迫ろうと懸命なのである。結果、実態はますますそれへの対応が見えにくくなり、誠実に子どもに問わる現場は疲弊の度を深刻に増していく、バーンアウト的な日常が珍しくなくなつてゐる状況にある。

だからどうするのか、という重い問いに児童養護施設は直面している。

先が見えず対応に難渋する現場は、ありがたい理論や有効そうな技術を見つけるためにかなりの時間を浪することになる。その分子どもたちや現場の状況から目を離すことになりはしないか、自戒しなければならないし、現にどうしていいのか分からぬ現場を識つている物書きや学者は沢山いるわけではないと思うべ

きである。もちろん温故知新を否定するものではないが。
さて、だからどうするのだろう。倫理や道徳などではなく、困り果てて、傷つき病に陥っている者に出会ったときあなたはどうするのか、という原初的な問ごとを自らに突きつけるべきではないだろうか、としきりに思う昨今である。
私たちが福祉の領域にある一線を踏み越えたことを振り返るのである。私のような者がその人に出来ることが何かないだろうか・・・、という思いを持たなかつた者は少数に過ぎないだろう。人と人との出会いなのである。出会いについての決意が問われるるのである。その決意の質を磨きながら、あなたが必要としているものを差し出すことの連続が、人と関わることの実態なのだろう。それがシステム化され、制度化してきた道を精査しながら、あるべき人との関わりの内実をこそ追求し始めなければならない時に今私たちには立っているのである。子どもたちの問題に心底からの関心を持ち、想像力を豊かにして迫ることをまず始めよう。
関心をもつと偏見が生じる（丸山真男：自己内対話、1998）ことに留意しながら。



学者もどきのつぶやき ⑦

神に感謝したくなる時

私は神の存在を前提にして日々生活している人間ではない。しかし、ときとして、神に感謝したくなるときもあるようだ。

先週の日曜日はそんなときであつた。日曜の朝は大体八時からBS2の「週間ブックレビュー」を観る。その週は以

て、富士郎（山形学長）、仙道（大学学長、故阿部謹也先生の「近代と世間」という本の紹介などがあり、阿部先生の書いた「新日本ネルをNHK教育に回して『新日本美術館』を観る。『カラバッジ』vsレンブラン、光と影の秘密に迫

る」という特集で、二人の天才画家の光と影の魔術を「これでもか」というほどに見せられる。どちらの画家がよりすごいのかということで番組は進んでいった。絵画に疎い私は、とてもそんなことは分からないが、切り下ろされた首を、自画像として描くカラバッジの精神は間違いないく病んでいたわけで、芸術の世界というものは、やはり私のような凡人には入り込むことのできない部分があるようだ。

この日は約束があった。ドライブで一小時間かかるところに、そば粉一〇〇パーセントのそばを食べさせられる「源藏そば」というそば屋があり、以前から懇意にしている。一週間前に「そばを食べに来ないか」という誘いがあったが、用事があつて行けなかつたが、土曜日にまた電話があり、次の日にお邪魔することを約束していたのである。

そば屋は混んでいるときに行くと、たまにびてしまつたそばを食べさせられることがある。大体店が空く一時過ぎころを狙つて行く。この日もそのころの時間に着いた。店の大黒柱のおばちゃんはいろいろの側に横になっていた。

おばちゃんはそばを食べる前にいることが多いので、この本も手に入れようと思い、メモ帳に書き込んだ。九時からもまたテレビである。チャンネルをNHK教育に回して「新日本美術館」を観る。「カラバッジ」

の読む声に合わせ、子どもたちの目が輝き、笑顔でいっぱいになつています。こんな小さなことからも、私は人間の営みをはるかに超えた、創り枝の先の堅い蕾が次第にふつくらしてきます。そな季節に、私は子どもたちに読んでもうける本があります。「ふゆめがつしようだん」（福音館書店）です。

皆さん、この二枚の写真は何だとおもいますか？ 小人か妖精の顔のように見えませんか？ 日常生活に追われ、私たちが見過ごしているこの世界に、こんなに愛らしく、ユーモラスな自然の営みが準備されているのです。

「みんな、みんなはきのめだよ春になれば、菜が出て花が咲く、バツバツ・・・」

私は子どもたちに読んでもうける本があります。皆さんがつしようとおもいますか？ 小人か妖精の顔のように見えませんか？ 日常生活に追われ、私たちが見過ごしているこの世界に、こんなに愛らしく、ユーモラスな自然の営みが準備されているのです。

私は神の存在を前提にして日々生活している人間ではない。しかし、ときとして、神に感謝したくなるときもあるようだ。

先週の日曜日はそんなときであつた。日曜の朝は大体八時からBS2の「週間ブック

レビュー」を観る。その週は以て、富士郎（山形学長）、仙道（大学学長、故阿部謹也先生の「近代と世間」という本の紹介などがあり、阿部先生の書いた「新日本

ネルをNHK教育に回して『新日本美術館』を観る。『カラバッジ』vsレンブラン、光と影の秘密に迫

る」という特集で、二人の天才画家の光と影の魔術を「これでもか」というほどに見せられる。どちらの画家がよりすごいのかということで番組は進んでいった。絵画に疎い私は、とてもそんなことは分からないが、切り下ろされた首を、自画像として描くカラバッジの精神は間違いないく病んでいたわけで、芸術の世界というものは、やはり私のような凡人には入り込むことのできない部分があるようだ。

この日は約束があった。ドライブで一小時間かかるところに、そば粉一〇〇パーセントのそばを食べさせられる「源藏そば」というそば屋があり、以前から懇意にしている。一週間前に「そばを食べに来ないか」という誘いがあったが、用事があつて行けなかつたが、土曜日にまた電話があり、次の日にお邪魔することを約束していたのである。

そば屋は混んでいるときに行くと、たまにびてしまつたそばを食べさせられることがある。大体店が空く一時過ぎころを狙つて行く。この日もそのころの時間に着いた。店の大黒柱のおばちゃんはいろいろの側に横になっていた。

おばちゃんはそばを食べる前にいることが多いので、この本も手に入れようと思い、メモ帳に書き込んだ。九時からもまたテレビである。チャン

ネルをNHK教育に回して「新日本美術館」を観る。「カラバッジ」

の読む声に合わせ、子どもたちの目が輝き、笑顔でいっぱいになつています。こんな小さなことからも、私は人間の営みをはるかに超えた、創

り枝の先の堅い蕾が次第にふつくらしてきます。そな季節に、私は子どもたちに読んでもうける本があります。皆さんがつようとおもいますか？ 小人か妖精の顔のように見えませんか？ 日常生活に追われ、私たちが見過ごしているこの世界に、こんなに愛らしく、ユーモラスな自然の営みが準備されているのです。

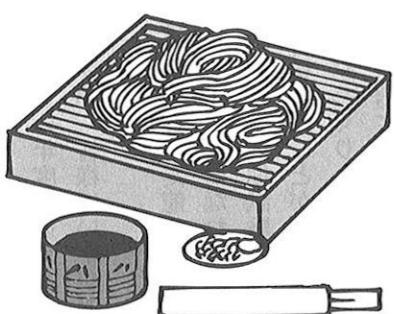
「みんな、みんなはきのめだよ春になれば、菜が出て花が咲く、バツバツ・・・」

私は子どもたちに読んでもうける本があります。皆さんがつようとおもいますか？ 小人か妖精の顔のように見えませんか？ 日常生活に追われ、私たちが見過ごしているこの世界に、こんなに愛らしく、ユーモラスな自然の営みが準備されているのです。

「みんな、みんなはきのめだよ春になれば、菜が出て花が咲く、バツバツ・・・」

私は子どもたちに読んでもうける本があります。皆さんがつようとおもいますか？ 小人か妖精の顔のように見えませんか？ 日常生活に追われ、私たちが見過ごしているこの世界に、こんなに愛らしく、ユーモラスな自然の営みが準備されているのです。

私は子どもたちに読んでもうける本があります。皆さんがつようとおもいますか？ 小人か妖精の顔のように見えませんか？ 日常生活に追われ、私たちが見過ごしているこの世界に、こんなに愛らしく、ユーモラスな自然の営みが準備されているのです。



私が赤ちゃんに寄せる思いを書いた「教会学校便り（二〇〇六年十一月号）」の一文を引用します。

「あちやまのマジックハンド」

私が赤ちゃんに寄せる思いを書いた「教会学校便り（二〇〇六年十一月号）」の一文を引用します。

「あちやまのマジックハンド」

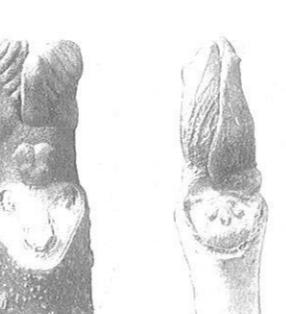
私が赤ちゃんに寄せる思いを書いた「教会学校便り（二〇〇六年十一月号）」の一文を引用します。



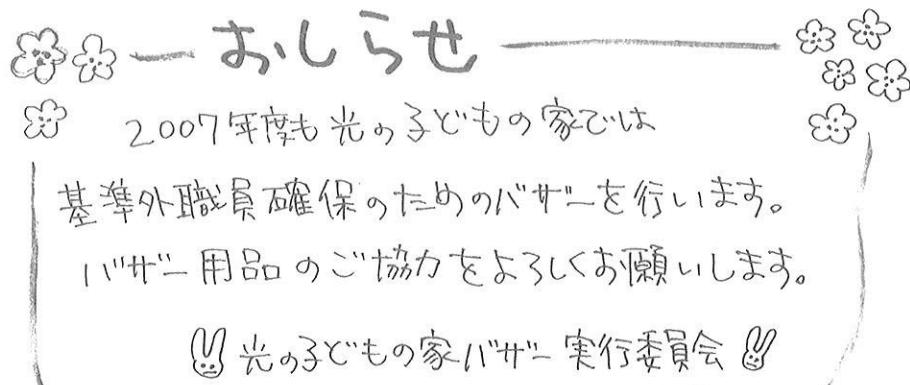
私が赤ちゃんに寄せる思いを書いた「教会学校便り（二〇〇六年十一月号）」の一文を引用します。



私が赤ちゃんに寄せる思いを書いた「教会学校便り（二〇〇六年十一月号）」の一文を引用します。



フエソの信徒への手紙五章・節



日誌抄 = 子どもと創る暮らしの風景 = 2006年12月1日▶2007年1月末日

2006年12月

- 2日 大利根藤幼稚園表現発表会 小な体をいっぱいに歌い、舞、演技する姿に感動
 4日 川越児童相談所訪問調査 担当cw3名と子どもたちの情報を交換し、対応などについて協議
 8日 クリスマスページェント配役の発表 子どもたちのファンタジーの頂点へ
 9日 聖学院大学生十数名が 子どもたちとのお楽しみウォンティア
 14日 開設以来続いている東大宮教会有志の進学資金の街頭募金がこの日から 格別な寒風の中に年を重ねた皆様が立ちつくし・・・
 17日 第3アドヴェントのお祝いに東洋英和女学院大学生8名が参加し聖らかな歌声が
 　○ 毎年ご支援し続けて下さる銀座ベンチャーラブより代表他4名が今年も
 18日 埼玉新聞社からの福祉事業団お米の贈呈式に田中施設長出席
 24日 第4アドヴェントとクリスマスイヴのディナーを楽しみ、大人から子どもへ、子どもから大人へのメッセージを交わし、讃美と聖書朗読などのキャンドルサービスを聖らかなファンタジーの中で 子どもたちが眠りに落ちる頃サンタクロースが担当者などの思いを込めたプレゼントを枕元に届けて夜は更けていく
 25日 学校のお友達、家族、支援者、教師、卒園者など関わりの深い方々100名余を
 　お招きしてのクリスマスページェントとお祝いの会を楽しくそして厳粛に
 28日 お餅つき 幼児さんから高校生、卒園生などと賑やかにそしておいしく
 29日から 帰省開始 年末まで子どもたちの家庭を訪ね調整しても少なくなったが・・・
 31日 帰ってきた卒園生などと年越しを

2007年1月

- 1日 元旦礼拝 お節を囲んで今年の第一食を 今年の抱負を語り合い楽しむ
 5日 正月気分をみづ飛ばそう会 帰省やお出かけからもどった全員で短い3学期を正月気分から抜け出して迎え撃つ心構えを整え すき焼きで体の養いを楽しく賑やかに そして決意を確認する
 17日 大利根中学校教師と光の子どもの家職員との懇談会 子どもたちの冬休みや学校での様子などの情報を交換し残り少ない年度の課題などを確認
 18日 床屋さんの田村さん来訪し散髪のご奉仕
 22日 南児童相談所の担当者來訪し、子どもたちの様子を面談などで確認し情報交換と課題への取り組みの協議
 <12・1月の物品寄贈>
 田沢櫻子 針谷廣 ほっかほか亭 ハムコ会 元和郵便局長 江森百合子 東地区婦人会 中山矯正歯科医院 若柳兆慶 栗原一子 宮沢嘉枝子 中江友則 清勝 岡本雅道 埼玉県書店商業組合 (株)ステラ 大岩文江 長沼文明 大高晋一郎 川島えつあ 日本キリスト教団高田教会・新生釜石教会 金臺和夫 山中久枝 大島直子 小塚功 富田農園 吉原純子 須藤サタ他多数の各位様 ありがとうございました (<5)

/// ————— 反 射 光 ————— //

☆行きつ戻りつしながら結局例年よりも少し早めの開花を待ちながら二〇〇七年度の準備を急いでおります☆今年度も中卒者の全員が希望する公立高校へ進学を果たしました☆一人の高校生が衝動性と愛と性の混乱の中で九年ぶりに中退しました☆指導者の変更での混乱を最小限に抑えながらの施設運営を心がりなりにも子どもたちの利益を守ることを中心進めることが出来たと嬉しく思っています☆いうまでもありませんが皆様のご支援が力あってのことです☆心から、心から感謝申し上げます☆高校卒業して就職する子どもの居場所作りに頭を痛めながら年度を跨いでしまいます☆実質的な公的援助の児童年齢の引き上げは急務だと思います☆長い間本誌を飾つて下さった永野三恵氏が連載を終了します☆感謝します。よろしくお願いします (のぶ)